

SDGsを目指す農林水産業の未来のために

近畿大学アグリ技術革新研究所 第44回オープンセミナー

2025年12月5日（金）

14:40～16:10

209教室

近畿大学教職員・学生・研究員聴講可

講師 | 吉田稔氏

東京大学 特別教授

理化学研究所 理事

入場無料
申込不要
来聴歓迎

ケミカルバイオロジー：生命科学と創薬研究の交差点

ケミカルバイオロジーは、化学的手法を基盤に生命現象を解明する研究分野として発展してきた。世界的にも我が国は、新しい生理活性物質を発見する天然物化学がきわめて強力であり、蓄積された生理活性物質群はケミカルバイオロジーにおける潜在的な研究材料の宝庫である。ユニークな生理活性物質には、必ず細胞内に特異的な標的分子が存在し、その同定は生物学に重要な発見をもたらすと同時に、創薬のための有用な情報を与えてくれる。私達は、その標的分子を発見する方法として、遺伝学における変異を化合物に置き換えた化学遺伝学の確立を目指してきた。その結果、エピジェネティクスを制御するヒストン脱アセチル化酵素やタンパク質核外輸送因子をはじめ、多くの遺伝子発現制御因子を同定し、いずれも生命科学の革新と抗がん創薬標的の発見につながった。さらに、私達はがんだけでなく、遺伝病治療への応用を目指した化学遺伝学にも取り組んでおり、併せて紹介したい。

世話人 | 松田一彦（近畿大学アグリ技術革新研究所 教授）

お問い合わせ | kmatsuda@nara.kindai.ac.jp